接続詞“因为”の特徴

伊　藤　加奈子

1．日本語の接続助詞終止文と中国語

複文は「～カラ，～」「～ケレド，～」「～レバ，～」「～テモ，～」のように，［従属節―主節］の並びで一般に示されるが，しかし現実の日本語の使用場面では，特に口語においては主節部分を省略したような形式が日常的に用いられる。主節部を省略し従属節が言わば独立する形で接続助詞を終助詞として，話し手と聞き手とが共同して会話の全体の流れを構築していくという傾向が顕著である。俗に「日本語は断定を避ける曖昧さを持つ言語である」という言われ方をされることがあるが，聞き手が察することを期待して発話するという態度はこの評価の一因になっているのであろう。

一方中国語は日本語の性格とは対照的に，ハッキリとしたものの言い方を好むとされている。その根拠は種々あるだろうが，複文の従属節に関する扱いが先に述べたような日本語の性格と大きく異なることもその一つと思われる。

まずこのような日本語と中国語の性格の違いを対照するために，日本語小説の中国語訳から従属節部分の単独使用に関する例を挙げる。もちろんあくまで翻訳であるから，誤訳もあり得るし，翻訳者の能力・癖等も考慮に入れなければならないが，両言語の性格の違いは見て取れると思う。日本語原文と中国語訳を並べて例示するが，それぞれの下線部分は「～ノニ」「～ケド」「～ナラ」等で日本語原文が終止している箇所と，それに対する中国語訳である。中国語訳の下線を引いた箇所については，筆者がその文のニュアンスに近い訳を改めて附記した。

1）修学旅行というと，八代神社ではお守りがたくさん売れた。母親たちは自分のまだ見たこともない広大な都会へ，子供たちがまるで決死的大冒険に乗り出すような気がするのであった。死や危険はかれらの日々のなりわいに，身のまわりの海にたえずひそんでいるのに。　『潮騒』

一到修学旅行，八代神社就可以售出许多护身符。母亲们觉得孩子们去自己未曾到达的大都市，简直像是要去做一次决死的大冒险。尽管在他们每天的谋生中、在他们身边周围的大海里，时刻都潜伏着死亡和危险，可是……

―＞かれらの日々のなりわいに，身のまわりの海に死や危険はたえずひそんでいるのに，しかし……。

2）「それからこっち，お師匠さんは操を立てとおして，一人で暮していやはるの。まだお若い，きれいな人ですけど。」　『仮面の告白』

“从此师傅一直坚持守寡，过着单身生活。尽管她还很年轻，长得又很鲜美，可……”

―＞まだお若い，きれいな人ですけど，でも……

3）「どうしたの。だらしがないわね」

「なんだ，チャーコじゃないか」
「なんだとは何よ。五年ぶりで会うのに」　『仮面の告白』

“你怎么了。真没出息呀！”
“嘿，那不是茶子吗？”
“什么嘿不嘿的。分别五年又重逢，可你……”

—>五年ぶりで会うのに，あんたは……

4）「なぜ御困りになるの」
「菊地さんにはよくしておかなければ」　『獅子』

“有什么难办的？”
“如果不好好对待菊池经理的的话……”

—>もし菊地さんによくしておかないと……

5）「行きたくなったら電話をかけてよこせよ。いつでもお供するよ」
「うん。行きたくなったらね。……多分……，もうすぐだ。もうすぐ決心がつくよ」
『仮面の告白』

“假如你想去，给我挂个电话，我随时都可以陪你去。”
“唔。假如我想去的话……大概……快了。很快就会下决心了。”

—>もし行きたくなったら……

1)〜5)までの例は，日本語が「。」（句点）で言い切りの形になっているが，中国語では“〜，可是……”“〜，可你……”のような後続成分があったり，また“……”のような省略記号が後ろに用いられていてすっきりとした言い切りの形になっていない。5)については，日本語原文にも「……」があるが，「行きたくなったらね。」に句点がついていることからこの「……」は前文に付属するものではなく分かれていると見なすことができる。しかし中国語訳の“假如我想去的话”には句点がついておらず，後ろの“……”（省略記号）と分かれてはいない。この例については単なる句点の付け忘れなのかそうでないのか判別できないのだが，少なくとも1)〜4)からみると，原文にはない省略記号や“〜，可你……”のような後続成分を態々訳出しているという態度がみてとれる。1)〜5)の中でも，

2)’○ “从此师傅一直坚持守寡，过着单身生活。尽管她还很年轻，长得又很鲜美。”

のように“。”（句点）で言い切りの形にしても成立に大きな支障は無いものもあるが，

3)’ ?? “什么嘿不嘿的。分别五年又重逢。”
4)’ ?? “如果不好好对待菊池经理的的话。”

のように言い切りにすると成立が難しくなるものもある。

また別の翻訳の仕方として，1)〜5)よりさらに原文にない部分をはっきり訳出するパターンがある。6)〜10)がそれである。

6）「どうしてもおかえりになるの？」
「うん，どうしてもだよ」　『仮面の告白』

“你无论如何也得回去吗？”
“嗯。无论如何也得回去。”

—>どうしても帰らなければいけない。

7）「いいのか，風邪を引いてるくせに。体操をやらされちゃうよ」　『仮面の告白』

“行吗，感冒了还脱上衣。这样会让你去做体操的啊。”

—>風邪を引いてるのに上着を脱いだりして。

8）「みんなで行ってみたいの。あのときだって貴方がいて下されば安心だった。貴方と御一緒なら」　『真夏の死』

“我是想大家一起去。即便是那个时候，要是你在我就安心了。如果和你在一起我就不会害怕了。”

—>もし貴方と御一緒なら私は怖くありません。

9）「これから先もまだ稽古なさいますの」

「一生です」

「お年を召しても」

「いよいよやります」　『姿三四郎』

“今后也还练功吗？”

“干一辈子。”

“上了岁数也还照样么？”

“直到一息尚存。”

—>お年を召してもやはり同じなのですか？

10）「私は……」

正五郎は父の眼を正面から瞶めた。

「柔術を教育のなかに植えつけることで，日本人本来の生き方を拓く所存で，これに一切の力をそそいで参りました。将来もその心算でおります」

「姉の仕合せを踏みにじってもか」

「……」

「父親の嘆きを他に見てもか」

「……」　『姿三四郎』

“我……”

正五郎和父亲的眼光正面对峙着。

“我打算把柔术移入到学校教育里面去，恢复日本人原来的生存方式，为此已经倾注了全部心血。将来也依然如此。”

“即使是葬送掉姐姐的幸福，也还是要继续干下去吗？i”

“……”

“全然不顾做父亲的心吗？ii”

“……”

—> i 姉の仕合せを踏みにじっても，それでも続けるつもりか？

—> ii 父の心を全く顧みないのか？

8)の“如果和你在一起我就不会害怕了。”などは，「貴方と御一緒なら」に相当する部分は“如果和你在一起”までであるが，それに続けて“我就不会害怕了。”＝「私は怖くありません」という原文にはないところまでかなり長く付加して訳をつけている。10)には「～テモカ」で終止するものが2箇所ありそれぞれ i／ii と区別したが，i の“即使是葬送掉姐姐的幸福”が「姉の仕合せを踏みにじっても」の相当箇所で，“～，也还是要继续干下去吗？”＝「～，それでも続けるつもりか？」は原文にはない訳である。中国語では日本語

原文に存在する部分だけでは意味が判りにくく終止感が得られないという性格が強いようである。

10）ii は，6)～9)や10）i とはまた翻訳パターンが異なり，「～テモ」の意味合いはカットされている。この接続助詞のニュアンスをカットしてしまう（中国語では訳出できないということかもしれないが）翻訳パターンもまた多く見ることができる。

11）『他の人のように，慰めの言葉を言ってくれはしなかった。私の淋しそうな様子に気がつかなかった筈はないのに』　『真夏の死』

“怎么不像其他人那样对我说几句安慰话，我这寂寞的神情他又不会没发现。”

—>私の淋しそうな様子に彼が気がつかなかった筈はない。

12）「乙美さん，これは運命なのだ，逢った最初の時からの約束なのだ」

「構いませんわ，そんな事から逃げても」　『姿三四郎』

“乙美，这是命运的安排，第一次见面时就说定了的。”

“那没关系，这种事可以摆脱。”

—>（関係ありません，）そんな事から逃げてもかまいません。

13）「下駄でよかろう」

「馬鹿を言え，洋服に下駄で鹿鳴館に行けるか」

「そうかな」

「弱った奴だ，先生の靴がはけるか」

「少々大きいが」　『姿三四郎』

“穿木屐可以吧！”

“这能胡说。上边穿西服，下面穿木屐，那样哪能去鹿鸣馆啊！”

“是吗？”

“这可不好办了。你能穿师父的鞋吗？”

“稍微大点儿。”

—>少々大きい。

14）「ほんとの事をおっしゃってね，私，いつまでも待ってはいますけれど」

“你有什么事就跟我说了吧，我永远等着你。”　『姿三四郎』

—>私いつまでも待っています。

15）「今のところ変化は来ますまい，激動がおさまればいいようです。注射はしておきましたが」　『姿三四郎』

“现在还没有什么变化。等激动平息下来就会好些的。刚刚给他打了针。”

—>つい先ほど注射をしておきました。

16）「おどすな。今日はこんな時化でも漁に行くのか」

「休漁やけど」　『潮騒』

“别吓唬人啦！今天这种暴风雨天，还出海打鱼吗？”

“不，是渔休日。”

—>いや，休漁日だ。

17）「ええ，ありがとう。何しろ折角のストックを空襲前にすっかり開けてしまったものだから。——こうと知ったらとっておくのでしたが」　『獅子』

“嗯，谢谢。说起来，特意库存的存货，在空袭之前，就会都喝光了……早知如此，是会先放好在一边的。”

—>早くにこうと知っていたら，とっておきましたよ。

翻訳のなかには原文と同様，従属節の独立した形をとるものもあった。ただこれらは上に挙げた3つの翻訳パターンに比べるとむしろ少数に属する。

18）「いかがでしょう。千鶴の婿に戴けませんか」

「千鶴さんの」

「あんな駄々っ子ですが」　『姿三四郎』

“怎么样，能不能让他当千鹤的女婿？”

“千鹤？”

“是的，尽管这孩子有些娇惯。”

19）「またきっとおいでになるわね」彼女はらくらくと信じ切った調子で言った。

「うん，多分ね。僕が生きていたら」　『仮面の告白』

“你一定会再来的吧！”

“唔，或许是吧。只要我还活着。”

18)19)のような形式を除くと，1)～17)に見られるように，「～テモ」「～ケレドモ」「～ノニ」「～ガ」…等々で終止する形の中国語訳は，

・“……”省略記号を用いるなどして，言い切りの形をとらない。

・日本語にはない補足的な訳を付加する。

・「～テモ」「～ケレドモ」等の接続助詞を無視して別の形で翻訳する。のような操作が行われることが多い。この上記の「省略記号を用いる」と「補足的な訳の付加」は根本は同じものであると思われる。単純に言い切りの形にできないという感覚があるからこそ原文にない訳を付加するのであろうし，“。”（句点）で止めるのを回避して“……”（省略記号）を用いるのだろう。

この日本語の従属節の独立用法と中国語との性格の違いはこれまで特に記述されたことはない。がしかし，中国語の大きな特徴として文作成において動詞を省略することができないというものがあり，これは広く知られている。「動詞を省略する」とはどういうことかというと，例えば日本語では

私は餃子が好き。／コーヒー，それとも紅茶？／五十歩百歩

という表現が一般的であるが，中国語では

我喜欢吃饺子。（私は餃子を食べるのが好き）

你喝咖啡，还是喝红茶？（コーヒーを飲む，それとも紅茶を飲む？）

五十步笑百步　（五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑う）

のように動詞が欠かせない傾向を持つ。日本語では「私は餃子を食べるのが好き」の「食べる」は分かり切ったものだという感覚が強く（敢えて動詞を表出すると「作る」のではなく，「食べる」のが好きという対比の感覚が生じる），提出しないのが一般的であるのだが，中国語ではその分かり切った感覚は無く普通省略は起こらない。このような動詞を言う必要がないととらえる日本語の性格は，複文主節の省略が頻繁に起るという現象にもつながっているように思われる。日本語の視点では言う必要のないように見えることも，中国語の生理では

述べなければならないという性格があるようだ。

しかし従属節が独立使用しにくい傾向を持つ中国語でも「～カラ」に関する表現は独立しやすい。「～カラ」は多く原因・理由を表し，それに相当するのは接続詞“因为”である。“因为”は“因为……，所以……”（……から，……である）のように複文の従属節をなすが，下の20)～22)や次節以降に挙げる例のように多く言い切りの形を作ることができる。

20）「なにもかもまずい」

「どうしてだ」

三四郎の感情が堰を切った。

「負けるからだ」　『姿三四郎』

“不论怎么看，也是不合适的。”

“为什么……”

三四郎的感情涌出了闸门:

“因为你肯定要输。”

21）「お勝ちになったんでしょう。私は右京ヶ原の試合の時から，姿さんは決して負けないと思い込んでいます」

「どうしてです」

三四郎はわずかに微笑した。

「強いから。強い上に運がいいから」　『姿三四郎』

“你胜了吧，我从右京原那次比赛时起，就确信你在任何时候都不会输的。”

“为什么呢？”

三四郎微笑了。

“因为你厉害，而且运气好。”

22）いろいろ思いめぐらしていると，時間は意外に早く経った。考えることの不得手な若者はものを考えるということのこの思いがけない効能，暇つぶしの効能を発見しておどろいた。が，若いしっかり者は，考えることをきっぱりやめた。どんな効能があろうと，ものを考えるという新らしい習慣に，彼が何よりも先に発見したのは，端的な危険であったから。　『潮騒』

他左思右想，时间意外地过得很快。他本来并不善于思考，现在发现思考竟有一种想不到的效果，消磨时间的效果，因而感到震惊。然而，健壮的年轻人断然停止了思考。因为思考虽有很大的效果，但他更先发现思考这种新的习惯，是一种极端的危险。

この“因为”フレーズの独立用法とでもいうものは多く見られるのであるが，なかには「～カラ」文でも“因为”が用いられないものも存在する。

23）「馬鹿な……一体君はなんのために戦うのだ。金のためか，名誉のためか」

「頼まれたからな」　『姿三四郎』

“真糊涂……你到底为什么要上场呢，是钱吗，还是名誉？”

“是人家雇我来的。”

24）「荷物疎開のことでお願いがあって上がったの。この間パパが達ちゃんにどこかでお会いになったら，いいところへ紹介してやるって仰言ったそうだから」　『仮面の告白』

“是来请他帮忙疏散行李的。前些日子，家父说：你如见到阿达，他一定会给你介绍个好

地方的。”

「～カラ」に相当するものには“因为”ではなく，下の25)のように“由于”を用いるケースがある。

25)「私はそれがとても淋しい気がしました。好意を持っている人にすら，深い幻滅を感じます」

三四郎は微笑した。

「それは僕にはよくわからんですが，あなたは誇りが高いからでしょう。で，なければ惚れぬからでしょう」　『姿三四郎』

“我觉得非常凄凉。对自己喜欢的人感到了深深的幻灭。”

三四郎微笑了:

“你说这些我倒不明白，大概是由于你太高傲了吧。瞧不起男人，便产生不了感情。”

しかしここでは“由于”については別の物として考察の対象外とする。どのような場合に“因为”を用い，どのような場合には用いないのか。小論は接続詞“因为”に焦点を当て，日本語の「～カラ」と比較することからその特徴を明らかにすることを試みるものである。

2．　「～カラ」とその中国語表現

原因・理由を一般に表すとされる「～カラ」には“因为”がよく見られる。

26)「お人形が日増しにきたなくなりますね」

「はあ，あの子も稽古が激しいものですから」　『姿三四郎』

“这偶人一天比一天脏起来了。”

“啊，因为他也在拼命练功。”

27)「そんなら，貴様はこれから外を歩くのに眼をつぶって歩くか，盲目になる他あるまい。洋服は増える一方だ，男も女も，みんな洋服になる日が来る」

「それは何故だ，戸田」

「便利だからな」　『姿三四郎』

“那么你以后出门时，就只好闭上眼睛或当瞎子了。洋服不断增加，男女都穿洋服的日子就要到来的。”

“这是为什么，户田？”

“因为方便。”

28)「紘道館の書生さん達は何故お金持ちにならないんでしょうね，姿さん」

と，笑いながら三四郎を見た。

「金がないからだろう」　『姿三四郎』

“姿君，紘道馆的书生们为什么成不了富翁呢？”

“因为没有钱啊。”

29)「……まだ半分以上残っているでしょう」

「ええあのままです。家では誰もいただきませんから」　『獅子』

“还剩一多半吧。”

“是的，还原样放在那里。因为家里谁也不喝。”

30）「ときどきあたくしわからなくなることよ。こうしてお目にかかっているの何のためかしら。それでいてまた，お目にかかってしまうのだわ」
「少なくとも意味のないマイナスではないからでしょう。意味のないプラスにはちがいないにしても」　『仮面の告白』

“有时我自己也变得不明白了。为什么就这样和你见面呢？尽管如此，我还是和你见面了。”
“因为这至少不是无意义的负数吧。也许还是无意义的正数呢。”

一方「～カラ」でも〈理由を表さない日本語の「～カラ」〉について白川1995に記述がある。〈理由を表さない「～カラ」〉とは次のようなものである。

来週返すから。（1000円貸してくれ）　／私は大丈夫だから。（心配しないで）

この「～カラ」の特徴は，聞き手に何らかの行為を要求する表現（命令・禁止・勧誘・依頼等）を実際に発語として伴ったり，またそういった表現の発語がなくとも暗示できるという談話的機能を有していることである。中国語の“因为”にはこの機能がなく，このタイプの「～カラ」文においては成立しない。

31）「乙美，お前すまんが，八重垣町の竜泉堂へ行って，いつもの煎じ薬を調合して貰って来てくれんか，明日の朝のがないからな」　『姿三四郎』

“乙美，你辛苦一趟，去八重垣町的龙泉堂把那副汤药抓来，明天早晨就没喝的了。”
—＞＊“乙美，你辛苦一趟，去八重垣町的龙泉堂把那副汤药抓来，因为明天早晨就没喝的了。”

32）「お送りしましょうか，道が暗いから」　『姿三四郎』

“我送送你吧，路太黑了。”
—＞＊“我送送你吧，因为路太黑了。”

33）「早苗さん，遠慮なしにビスケットを食べて下さい。これは美味いですから」
『姿三四郎』

“早苗，不要客气，饼干挺好吃的。”
—＞＊“早苗，不要客气，因为饼干挺好吃的。”

34）「途中までででもお送りしましょう」
「はあ，僕は歩く方が慣れていますから」　『姿三四郎』

“那我送你一段路吧！”
“不了，我习惯于步行。”
—＞＊“不了，因为我习惯于步行。”

35）「お嬢様，あまり風が冷とおございますから……」
看護婦が近づいて，おずおずと注意した。　『姿三四郎』

“小姐，这儿的风实在太凉了，所以……”
护士走进近前来，毕恭毕敬地劝说道。
—＞＊“小姐，因为这儿的风实在太凉了，所以……”

36）「噴水を見てるんだ。見てみろ。いくら泣いたって，こいつには敵わないから」
『雨のなかの噴水』

“看喷水呗。瞧！你再怎么哭，也敌不过它啊。”

—＞＊“看喷水呗。瞧！因为你再怎么哭，也敌不过它啊。”

37）「かんにんえ！かんにんえ！今治してあげるから！今じきだから！」　『金閣寺』

“忍着点儿！忍着点儿！马上给你治！马上！”

—＞＊“忍着点儿！忍着点儿！因为马上给你治！马上！”

38）「僕一寸用がありますから」[1]　『煙草』

“我还有点事。”

—＞＊“因为我还有点事。”

39）「あんなお水を呑んじゃいけません。ちゃんとここにあるんだから」　『真夏の死』

“不能喝那儿的水。这里带着哪！”

—＞＊“不能喝那儿的水。因为这里带着哪！”

以上のことから“因为”は〈理由を表さない日本語の「～カラ」〉のような聞き手に何らかの行為を促す働きかけ機能を持たず，この場合“因为”を用いると文が成立しない，と解釈できそうであるが，実は“因为”が拒否される現象はそれでけではなく，そう単純な話ではない。

40）三人はかれらの小さな所有地に到着した。それは多くの墓が背を向けている新らしい分譲の一劃で，柘植の弱々しい若木がまばらに，しかしよく見ると規則正しく植えられていた。まだ檀那寺に預けられている遺骨は移されず，従って卒塔婆もない。縄を張った平坦な四坪の地面があるだけである。

「ここへ一度きに三人も入るんだからなあ」

勝がそう言った。　『真夏の死』

三个人来到了属于他们的小块土地。它背朝着众多墓冢，是一块新近卖出的墓地。幼小的黄杨蔬蔬落落，然而仔细看去，却排列得井然有序。再放在菩提寺的遗骨尚未移过来，因此没有塔形木牌。只是一块用绳子圈起来的平坦的四坪地面。

“因为一次就要这里安葬三个人啊。”胜说。

この訳では確かに“因为”が入っているが，筆者には引っ掛かるものが感じられたのでインフォーマント・チェックをしたところ，中国語ネイティヴ・スピーカーにも意味が分かりにくいとのことである。原文の下線部箇所は登場人物の勝が，自分の妹と子供二人の三人が入る予定になっている墓地を目にして発した言葉である。この場面には勝の妻の朝子が同行しているが，この言葉に対する聞き手である彼女の反応は無く，この台詞は朝子に対する働きかけと言うよりむしろ，「（ここへ一度きに三人も入るんだから，）あっけないものだ／不思議な感じだ／……」といったような話者である勝自身の感情を示していると思われる。この例の場合は

40）’“一次就要在这里埋三个人啊。”

のような“因为”を使わない訳がふさわしいとのことである。

インフォーマントが判りにくいと感じた理由は，“因为”フレーズを用いる際には，それがリンクしているような事態が前文に必要であるが，この例では感じられないということである。例えば１節に挙げた26）での

26）「お人形が日増しにきたなくなりますね」

「はあ，あの子も稽古が激しいものですから」　『姿三四郎』

「あの子（人形）も稽古が激しいから」という理由は「人形が日増しにきたなくなっている」という事態とリンクしていると理解されるが，40)の「ここへ一度きに三人も入るんだからなあ」という台詞は会話の最中ではなく，ふと単独に発されたものであり，前文に述べられている事態にリンクするというよりも，墓地を目にして話者が抱いた感情の発露と解釈できるだろう[2]。例40)の下線部分は“因为”が無いほうが理解しやすいとのことであり，日本語の「～カラ」に引き摺られた誤訳の可能性がある。これと似たような例が他にもある。

41）「永くいると，その間にどんな事が起るか知れないぜ。それにそんなに永く休暇はとれない」
「一晚泊りでいいの」
「不便なところだからなあ」　『真夏の死』

“呆的时间一长，中间不知会出什么事呢。再说，我也请不了长假啊。”
“住一夜就行。”
“那地方太不方便啦。”
—＞＊“因为那地方太不方便啦。”

41)も“因为”が使われない例である。「不便なところだからなあ」というこの台詞は「(不便なところだから,) 俺を一緒に連れていくのはやめてくれ」という聞き手への働きかけ機能とも解釈できるかもしれないが，「(不便なところだから,) 面倒くさい／気が進まない／……」といった話者の感情を表しているとも考えられる。41)ではたまたま談話中にあるが，この文は一人で部屋の中に居て，「あそこは不便なところだからなあ。(やっぱ行くのよそう)」と独り言としても発することが可能である。聞き手への行為を促す働きかけの機能にせよ，感情の発露にせよ，表出が話し手寄りであるという点では共通するものを持っていると思われる。40)41)はいずれも「～カラナア」という詠嘆の語気助詞を伴っており，感情を表すのに大きな効果を果すのであるが，このような文が　「なぜ／どうして」の答になるとどのようなニュアンスを持つのであろうか。

42）「勝負をする必要もなかろうと思う」
握飯を噛み噛み，正五郎は微笑した。
「何故だ」
「危ないからなあ」　『姿三四郎』

“我觉得没必要决出胜败。”
正五郎嚼着饭团微笑着说。
“为什么？”
“因为那样太危险了。”

この「危ないからなあ」という正五郎の台詞は勝負を求められているのは彼本人であるのにどこか他人事のような，相手に真面目に対応していないような，柔術からの果し合いの申し込みを「危ないから」の一言で片付けてしまう彼の飄々とした軽さを感じさせる受け答えのように筆者には感じられる。訳は“因为那样太危险了。”となっており，“为什么？”という問に対する答にはなっているが，きちんと相手に向いて対応している感覚があり，筆者が抱くような原文の飄々とした軽いニュアンスまでは感じられない。軽さを感じさせたいならやはり“因为”は用いず，

42)’ “这样大概很危险吧。”

のようにすればどうかという意見がインフォーマントから出された。なぜ“那样”が“这样”に，副詞が“太”ではなく“很”に変更されるのかといった興味深い問題も存在するのだが，それはともかく“因为”はこのようなニュアンス表現とは相性が悪いことが見て取れる。もちろん「～カラナア」はすべての場面において軽さを演出するものではない。42)でも握飯を食べながらではなく，目を閉じてぐっと腕組みでもして「危ないからなあ」と重々しく発してもよいのだが，そのような場合では「(危ないから,) さてどうしようか」という感情が話者当人に起きていて，やはり聞き手に対しまっすぐに理由を答えるという態度にはならないと考えられる。下の43)は「～カラ」が用いられていない例で，中国語訳もそれに合わせたのか“因为”を用いていない。43)は感情の表出の例とは違い，むしろこれは原因を述べるものであるが，“因为”の有る無しでやはりそこから感じられるニュアンスは異なる。

43) 「どうだ，お澄さん，この男が，まだ，お前の親父を投げ殺したと思うかな」
「思いません，和尚様」
「どうしてな」
「父は中風で亡くなりました」 『姿三四郎』

“怎么样，阿澄，你还认为是他摔死了你父亲吗？”
“不了，师父。”
“为什么呢？”
“父亲是中风而死的。”
—＞ “因为父亲是中风而死的。”

訳文の “父亲是中风而死的。” は，ただ「父が中風で死んだ」という事態をただ報告するだけというニュアンスであるが，“因为父亲是中风而死的。” はやはり聞き手に対して理由としてはっきり答えている話者の態度が感じられる。また後者は“因为”を用いていることで，話者本人が自分の中でそのことを理由として認める，もしくは理由として信じている態度が同時に感じられる。また「～カラ」は先に挙げた〈聞き手に何らかの行為を促す働きかけ機能を有する，理由を表さない「～カラ」〉とはまた別種の，理由にもならぬようなものにも用いる場面がある。

44) 「一人でなんか行けないわ」
「なぜだ」
「だって何だか怖くて」 『真夏の死』

“一个人哪能去啊。”
“为什么？”
“不知为什么有点儿害怕。”
—＞＊ “因为不知为什么有点儿害怕。”

44)の「だって何だか怖くて」は「だって何だか怖いから」のようにも言い換えが可能である。「何だか判らないけれどとにかく怖い」というのは話者が原因・理由をはっきりと認識しておらずに「一人では行けない」と聞き手に自分の主張を訴えている（もしくは原因・理由を正しく認識していても聞き手に率直に伝える気が無い）ということである。「～カラ」はそのような場面においても使用できるが，この場合中国語で“因为”を入れるともちろん

非文となる。話者がハッキリと原因・理由を認識し，それを聞き手に対して率直に答える態度をとるという条件が揃って，接続詞“因为”の使用が可能になると言えるであろう。

別の“因为”の特徴としてはよく“是……”と共起することである。特に推測や疑問の場面では“是因为……的”の形式をとることが多い。

45）「でも一度承知なすったくせに」

「お前があんまりしつこいからじゃないか」　『真夏の死』

“可你明明是答应了的呀。”

“还不是因为你絮絮叨叨没完没了？”

46）「ねえ，先生，西郷さんは西南戦争では死なずに，まだ生きているというのはほんとですの」

正五郎は焼いた握飯を，少しずつ千切って食べていた。

眼をあげて，

「西郷星だの，生存しているのだと言うのは，国民が隆盛を惜しむ感情からでしょう」

『姿三四郎』

“先生，听说西乡没有死于西南战争，现在还活着，这是真的吗？”

正五郎一点点掰开饭团吃着。他抬起头说:

“说西乡还活着，这大概是因为国民们崇敬他的缘故吧。”

—>○ “说西乡还活着，大概是因为国民们崇敬他的缘故吧。”

—>？“说西乡还活着，大概因为国民们崇敬他的缘故吧。”

“大概因为国民们崇敬他的缘故吧。”という表現は口語では言う可能性があるが，インフォーマントによっては若干違和感があるとのことである。“因为”フレーズには推測の語気助詞“吧”でフレーズ全体を受けることは可能だが，“大概”のような副詞が直接修飾しにくいという傾向が見られる。また疑問助詞“吗”で“因为”フレーズをそのまま受けにくく，やはりこの際も予め“是”で全体をコト化させる方がよりベターだということである。“因为”フレーズの疑問の例が見つからなかったため（そのような表現は少ないということの現れかもしれないが），下の例は日本語は筆者の作例であり，中国語はインフォーマントによる訳である。

47）「彼女泣いちゃったよ」

「私が怒ったからか？」

“她哭了。”　“因为我刚才发脾气了？”

“她哭了。”　“是因为我刚才发脾气了吗？”

“她哭了。”　“因为我刚才发脾气，是吗？”

？“她哭了。”　“因为我刚才发脾气了吗？”

“是”で“因为”フレーズ全体をコト化させる例は先に挙げた23)のようなものもある。

23）「馬鹿な……一体君はなんのために戦うのだ。金のためか，名誉のためか」

「頼まれたからな」　『姿三四郎』

“真糊涂……你到底为什么要上场呢，是钱吗，还是名誉？”

“是人家雇我来的。”

このことは談話における焦点がどのようになっているかが関わっていると考えられ，単に

“因为”フレーズだけで答えるものとどのような違いがあるのか興味深い問題である。少なくとも日本語の「カラ」と対照することにより“因为”の特徴には,

・聞き手に働きかける機能／話者の感情の表出機能を持たない
・話者が確実に原因・理由であると認識するものに対し用いる
・聞き手にきちんと理由として説明するモードを表す

のようなものが見いだせる。日本語の「～カラ」が広く様々な場面で用いられるのに比べ,“因为”の使用範囲は狭く,かなり制限があると思われる。

3. “为什么?”（なぜ／どうして）にどう答えるか

では実際に原因・理由を答える場面ではどのような表現が用いられるのであろうか。ここでは資料としてシナリオ集《夏衍电影文学奖获奖剧本集 第一集》を使用し,「なぜ／どうして」に相当する“为什么?”に対し,どのような答が返ってくるのかを見てみる。尚,中国語原文に対訳を附記したが,訳は筆者によるものである。

48) 李芳: “吴强你为什么才来作证呢?”
吴强: “我本来是不想来的,一个青年人,见死不救,让人知道多不义气。”
李芳: “为什么你又勇敢地站出来了呢?”
吴强: “我的未婚妻于雨华逼我说的。她说,第一次见受伤者不救,我的良心丢了一半。今天如果我还不敢站出来,救助乔师傅一把,为他作证,那我就没心没肺,不是人了!”
《离开雷锋的日子》

—>○ “因为我的未婚妻于雨华逼我说的。…(後略) …”
李芳:「呉強さん,あなたはなぜ証人に来たのですか?」
呉強:「もともと来たくはなかったんですが,若者が死を目にして助けの手を差し伸べないのは,義侠心に欠けると人に思われるでしょうから」
李芳:「どうしてまた勇敢にも立ち上がったのですか?」
呉強:「私のフィアンセの于雨華が言ったんです。彼女が言うには,まず怪我人を救助しなかったことで私の良心が半分失われ,今日もし私が喬さんを助けるのに証人として立ち上がらなければ,私は心がない,人間でなくなってしまうと」

49) 齐红光: “那你赶快告诉妈去!”
刘世杰有些难为地: “还是你去吧?”
齐红光: “为什么?”
刘世杰: “你们都是女的,好说话!” 《生活漫步》

—>○ “因为你们都是女的,好说话!”
斉紅光:「じゃあはやくお義母さんに言ってよ!」
劉世杰いささか気まずそうに:「やっぱりお前が言ってくれないか?」
斉紅光:「どうして?」
劉世杰:「女同士なんだから,話もしやすいだろ!」

50) 陶淘生气地说: “你们为什么不听我讲的故事?”
高珊: “你讲的故事我们都听过一百遍了。” 《陶淘和他的小小同学》

—>○ “因为你讲的故事我们都听过一百遍了。”

陶淘怒って言う：「どうして僕のお話を聞かないの？」

高珊：「あんたのお話はもう百回も聞いたわよ」

51）白洁揉着眼睛说：“梁老师，我不想参赛了……”

梁老师不解地：“白洁，这是为什么？”

陶淘抢先说：“我知道为什么，因为白洁爸爸、妈妈都没来看她表演。”

《陶淘和他的小小同学》

—>○ “我知道为什么，φ白洁爸爸、妈妈都没来看她表演。”

白潔眼をこすりながら言う：「梁先生，私出たくない」

梁先生困惑した様子で：「白潔，それはどうして？」

陶淘先に言う：「僕どうしてか知ってるよ，白潔ちゃんのお父さんとお母さんが発表を見に来ないからだよ」

52）陶淘领着小男孩坐到台阶上，向广场上张望着。

他边望边问道：“小弟弟，你叫什么名字？”

小男孩：“我叫聪聪。”

陶淘：“你不该叫这个名字。”

小男孩：“为什么？”

陶淘：“你和妈妈拉着手，最后还走丢了，可真不够聪明。” 《陶淘和他的小小同学》

—>○ “因为你和妈妈拉着手，最后还走丢了，可真不够聪明。”

陶淘男の子を連れて石段に座り，広場を見渡す。

陶淘眺めながら尋ねる：「ねえ君，なんていう名前なの？」

男の子：「聡聡っていうの」

陶淘：「その名前じゃダメだよ」

男の子：「なんで？」

陶淘：「お母さんと手をつないでいたのに迷子になっちゃったんだろう，全然お利口（聡明）じゃないよ」

53）（田园给大家讲‘小羊过桥’的故事。）

田园：“大家说，小白羊和小黑羊为什么掉到河里去了呢？”

小朋友们异口同声地：“因为它们不相互谦让！” 《陶淘和他的小小同学》

—>○ “φ它们不相互谦让！”

（田園はみんなに「小山羊が橋を渡る」のお話をする）

田園：「みんな，白山羊さんと黒山羊さんはどうして川に落ちてしまったんでしょうか？」

幼稚園のみんな異口同音に：「どっちもお互いに道を譲らなかったから！」

例が多くなったが，ここに挙げたのは“因为”があってもなくても特に成立には大きな差がない例である。53)に関してはインフォーマントによると“因为”があるほうがどちらかといえば場面にふさわしいようである。「なぜ」という問に対しその理由をきちんと相手に向けて答えるという“因为”の性格の所以であろう。

54）杜老师帮刘奶奶拿着东西，陪她走着：“你儿子下岗的事为什么不告诉我呢？”

刘奶奶：“这是我们家的事儿，怎么好麻烦你呢！” 《生活漫步》

—>？“因为这是我们家的事儿，怎么好麻烦你呢！”

杜先生は劉お婆さんの荷物を持ち，彼女について歩く：「君の息子さんが仕事を辞めたこと，どうして私に言わないのかい？」

劉お婆さん：「これは私の家の事だから，貴方に面倒かけられないわ！」

この例では“因为”を用いにくいとするインフォーマントもいる。「(私の家のことだから,) 貴方には言わなかった」とすれば理由の表明になり“因为”が用いられ，「(私の家のことだから,) 貴方には関係無いでしょう」という感情の色彩を汲み取ると“因为”を付けるのがためらわれるのかもしれず，読む人によっては解釈の揺れがありうる例である。

55) 田园：“我不是说过了，爸爸、妈妈不准我再帮你打电话，这事要让你爸爸知道了，他要来找麻烦的！”

陶淘迷惑不解地：“找麻烦？为什么？”

田园：“我也不知道为什么。我爸爸、妈妈说，要是把白洁爸爸惹恼了，给我们找麻烦，我们就不能上这个幼儿园了。”　《陶淘和他的小小同学》

田園：「(白潔に向かって) 言ったじゃないか，父さんと母さんがもう電話をかけるのを手伝っちゃダメって言うんだ。この事が君（白潔）のお父さんが知ったら，面倒なことになるよ！」

陶淘訳が分からない様子で：「面倒なこと？なんで？」

田園：「僕もなんでか知らないけれど，うちの父さん母さんが言うには，もし白潔のお父さんを怒らせると，面倒なことになって，僕らはこの幼稚園に来られなくなるからだって」

55) は“我也不知道为什么。”「僕もなんでか知らないけれど」という言い方があることから見て取れるように，原因・理由が話者本人には判っていない例である。対訳で筆者は「僕もなんでか知らないけれど，……，僕らはこの幼稚園に来られなくなるからだって」と「～カラ」を付けてみたが，日本語では問題なく成立する。しかし，2節で述べたように話者自身が原因・理由をはっきり認識していない場合中国語では“因为”を用いることができないのであるから，この例もその特徴が反映されていると考えられるだろう。一方理由ともいえないものについて，話し手が強引に理由に仕立てる例がある。

56) 高珊拿起一条西瓜说：“这条给田园，他关心、帮助小朋友。i”

田园彬彬有礼地接过西瓜：“谢谢！”

高珊拿起另一条西瓜：“这条给白洁，因为白洁没有妈妈……ii”

《陶淘和他的小小同学》

—>i ○ “这条给田园，因为他关心、帮助小朋友。”

—>ii○ “这条给白洁，φ白洁没有妈妈……”

高珊一切れのスイカを手に言う：「これは田園君にあげる，田園君はみんなに親切でお手伝いしてくれるから」

田園は礼儀正しくスイカを受け取る：「ありがとう！」

高珊別の一切れを手に：「これは白潔ちゃんにあげる，白潔ちゃんはお母さんがいないから……」

57) 只剩下最后一条西瓜，小朋友跟巴巴地望着高珊。

高珊拿起西瓜突然说：“最后一条西瓜归我啦，因为我胖，吃得多！”

《陶淘和他的小小同学》

—>?? “最后一条西瓜归我啦，φ我胖，吃得多！”

最後のスイカが残り，みんな期待の目で高珊を見つめる。

高珊スイカを手にとり突然言う：「最後の一切れは私のよ，私は太っていて沢山食べるから！」

56)と57)はどちらも「高珊（幼稚園児）が，先生の切り分けたスイカを幼稚園の友達に渡す」という一場面からの例である。56)はi／iiの2箇所に理由を表しているようなフレーズがあるが，どちらも“因为”があってもなくても大きな違いは感じられない。しかし57)は“因为”がないと前後の“最后一条西瓜归我”と“我胖，吃得多”の間のつながりが感じられず，“我胖，吃得多”が唐突な発言のように聞こえてしまい文成立が苦しいようである。ここに挙げられた56）i／56）ii／57)の高珊の3つの台詞はどれも「スイカが誰のものになるか：その理由」という関係では等しいのであるが，57)の「太ってて沢山食べるから」については，やや身勝手な主張であると感じられる。実際にこのシナリオで高珊という女の子は幼稚園児の中でもちょっと意地悪な性格付けをされているのだが，“因为”をつけることで常識的には理由とはいえないようなものを強引に理由とし，周囲に宣言することが可能になっていると思われる。この手の冗談めいた言い方は日本語にも存在するが，中国語ではもっともらしい理由とするために“因为”フレーズにするのが効果的なのだろう。

興味深いのは次の2例である。

58）陶淘从电话亭走出，关心地问：“小弟弟，你为什么哭呀？”

小男孩见了陶淘像见了救星一般：“大哥哥，我找不到妈妈了……”

《陶淘和他的小小同学》

陶淘電話ボックスから出て，気遣うように尋ねる：「ねえ，どうして泣いてるの？」

小さい男の子陶淘を救い主のように見る：「お兄ちゃん，僕ママが見つからないの」

—> i ＊“大哥哥，因为我找不到妈妈了……”

—> ii ○“因为我找不到妈妈了……”

59）小付：“老齐，天天都洗澡你干嘛总那么使劲呀？好象那身上的皮不是自个儿的，那叫狠。”

齐红光：“别提了，我们家丫头总说我身上有猪尾巴大肠头的味儿，你说气不气人？”

《生活漫步》

—> i ＊“别提了，因为我们家丫头总说我身上有猪尾巴大肠头的味儿，你说气不气人？”

—> ii ○“因为我们家丫头总说我身上有猪尾巴大肠头的味儿，你说气不气人？”

小付：「斉さん，毎日シャワーでどうしていつもそんなにごしごし洗うの？まるで自分の皮膚じゃないみたい，ものすごいわね」

斉紅光：「やめてよ，うちの娘がいっつも私の身体からブタのお尻の臭いがするって言うのよ，頭来るでしょ」

58）iと59）iのどちらも“大哥哥，～”“别提了，～”という言葉が入っているが，どうもこれらが存在すると“因为”が使用できないようである。58）iiや59）iiのように“大哥哥，～”“别提了，～”をはずして再度調べたところ，これなら成立に問題なしというインフォーマントの反応を得た。58）iiの“因为我找不到妈妈了……”は，母親とはぐれて泣いている

子供の台詞にしては若干硬すぎる感じがあるが成立はするだろうということである。“为什么”“干嘛”（=「なぜ／どうして」）という問に対する答には，聞き手に対し真正面からきちんとその理由を述べるのが一般的と考えられるかもしれないが，場合によっては理由が判らなかったりまた理由を答えたくないときもあるだろうし，様々な返答の仕方が考えられる。58)は理由を述べるというより，むしろ「(ママとはぐれちゃった,) どうしよう誰か助けて」という訴えかけをしていると考えられる。故に“因为我找不到妈妈了……”とした場合若干生硬である感を持たせるのかもしれないが，ここに前置きされる“大哥哥，～”はその訴えかけのモードを作る切り出しの語として機能しているのではないだろうか。59)では“别提了，～”「その質問はやめてちょうだい」という語があることから，話者は理由を答えたくないという思いを持っていることが判断できる。ここでは聞き手に対し率直に答えるモードではなく，やや斜に構えた態度で答えていると思われる。“大哥哥，～”“别提了，～”が表しているような答え方のモードと，“因为”を用いる答え方のモードにギャップがあるため，これらを同時に一つの発話内で使用すると強い違和感が生じると考えられる。“大哥哥，～”“别提了，～”などの，“因为”とは異なるモードを持つ表現は様々あると考えられ，“为什么？”「なぜ／どうして」に対し，「～だから」と原因・理由を述べるのにもどのモードで答えるのか，またモードの切り替えが起る場合それはどのような語が用いられるのか，どのような形になるのかが今後の課題となるところである。

注１）ただし中国語では「用事があるから」といったような「ぼんやりとした理由」で断わるのは相手の面子を傷つけると考えられ，礼儀上好ましくないとされる。断わるための理由は具体的に述べるのが中国語流なのであるが，この「理由」については中国語におけるポライトネスの表現方法を併せて考えなければならない。

注２）この感情表出に関わるような「～カラ」は田窪1987によるＣ類の「判断の根拠」を表すものとも考えられる。

参考文献

『殉教』三島由紀夫　新潮文庫
『真夏の死―自選短編集―』三島由紀夫　新潮文庫
『仮面の告白』三島由紀夫　新潮文庫
『金閣寺』三島由紀夫　新潮文庫
『潮騒』三島由紀夫新潮文庫
『姿三四郎（上・中）』富田常雄　新潮文庫
《忧国・仲夏之死――短篇小说集》作家出版社1995唐月梅訳
《假面自白・潮骚》作家出版社1995唐月梅　许金龙等訳
《姿三四郎》（上下册）时代文艺出版社1985尚侠　徐冰訳
《夏衍电影文学奖获奖剧本集　第一集》中国电影出版社1997夏衍电影文学奖评选委员会办公室编
白川博之「理由を表さない「カラ」」『複文の研究（上）』仁田義雄編　くろしお出版　1995　P189-219
野田春美「「のだから」の特異性」『複文の研究（上）』仁田義雄編　くろしお出版　1995　P221-245

曹泰和「断り表現」『テックメイト交流』vol.1　ベネッセコーポレーション1998　p34
南不二男『現代日本語文法の輪郭』大修館書店1993
『現代中国語文法総覧』刘月华　藩文娱　故铧著　相原茂監訳　くろしお出版1991
《现代汉语常用格式例释》武柏索　许维翰　陶宗侃　阎淑卿合編　商务印书馆1988
《关联词语辨析》居志良　金志浩　张伯元　金怡弟編著　福建教育出版社1988
《语篇的衔接与连贯》胡壮麟編著　上海外语教育出版社1994
（《现代语言学丛书》许国璋　王宗炎主編）
《单句与复句》徐公　张沛泓主編　北岳文艺出版社1997
（《语文知识小丛书》刘跃池　谭镇湘　霍士祥編）